

# I 準備編

## 1. マニュアルの使い方

本マニュアルの狙いは、学校教育や小学生・中学生・高校生の保護者による教育、地域の方々への教育等の指導教材として、みんなで考え、みんなで学びながら、繰り返し指導できる指導事例を紹介しています。指導に必要な時間として、50分程度の展開が中心となっていますが、それぞれの指導項目では短時間で指導することもできます。

### ○毎日の指導

日常生活において、繰り返し指導を行うことで交通安全意識の高揚を図ります。

### ○まとまった時間の指導

学級活動や地域での活動において、交通安全教育を実施することで、危険を予測して、的確な判断の下に、安全に行動できる資質や能力を育成します。

これらを有効的に組み合わせ効果的かつ効率的に指導が行えるよう「II 実践編」に指導例を紹介しています。「自ら危険を予測し、回避する能力」と「安全に行動する態度」が備わるように進めることが重要です。各指導例において、「指導のねらい」「対象」「指導時間」を整理していますので、指導時の参考としてください。

指導事例	タイトル	指導のねらい	対象	指導時間の目安
1	生徒への声かけ	生徒への声かけを繰り返し、交通安全意識を高める。	中学生・高校生	5～10分
2	「ひやり・はっと体験」の発表	交通場面に潜む様々な危険と原因を知り、その原因の排除により事故が避けられることを理解させる。 ワークシート	小学生・中学生 高校生・一般	50分
3	危険予測学習	交通場面における様々な危険を予測できる力とそれを回避する力を身に付けさせる。 ワークシート	小学生・中学生 高校生・一般	50分
4	交通法規指導	自転車に関する交通法規を正しく身に付けさせる。 学習シート      ワークシート	小学生・中学生 高校生・一般	5～10分 ×7回
5	自転車運転者の義務と責任	自転車に乗る際に必要となる運転者の義務と責任を理解させる。 学習シート	中学生・高校生 一般	50分
6	高齢者・障害のある人の立場に立った体験	交通弱者に対してどのように配慮していくべきかを考え、行動を身に付けさせる。 ワークシート	小学生・中学生 高校生・一般	50分